

月報

80号

発行所

青丘文庫

編集・発行★韓 哲 暭

〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンド青丘ビル2階

TEL(078)734-5989 FAX 735-0660

朝鮮総督府の米穀検査制度

朝鮮民族運動史研究会

第119回例会

飯沼 二郎

総督府は日本への最大の輸出品である米の増産に努力したが、それによつて最大の収益をあげるためには、日本人の嗜好に合った米の品種「いわゆる「優良品種」」を朝鮮農民に対して強制しなければならなかった。そのため、対日輸出の関門を嚴重に監視する必要があった。それが米穀検査制度にこそ、総督府の農業政策の性格が集約的であらわれている。「優良品種」の「指導」を行つた日本人農芸者は、もともと日本の農民に対して深い蔑視をもつていたが、それが当時の日本人一般の朝鮮人蔑視感に加速されて、朝鮮人農民に対し深い蔑視感を持つていた。彼らは、朝鮮の在来農法から学ぼうとはせず、専ら日本の農業技術を朝鮮農民におしつけた。それについてのは反省が、総督府農民事試験場の日本人農学者に起つてきたのは敗戦直前であり、試験場の改革が考えられが、敗戦とともに折角の改革も実現されることなくして終つた。

総督府の農業指導は、当初から極めて権力的であつた。ひとたび優良品種が決定されるや最下級の行政單位であるに至るまで、年次計画が系統的に整然と確立され、定められた優良品種以外の栽培は禁止され、その「指導」に従わないものは、苗代は踏み破られ、苗は抜き捨てられて再植を命じられ、裨拔きは農民を動員して強行され、収穫すれば乾燥について、乾燥すれば調整について日本式のやり方が強制された。例えば、米の脱穀調整に筵を

敷かないものには、罰金が課せられた。このようにして優良品種の日本市場における高品価値を高めたのであつたが、一方、朝鮮農民のふるいくからもつていた経済的自動性は一挙に破壊され、彼らは、外来的、他動的な経済活動の軌道に強制的に引き入れられた。このような急激な変化に対して、朝鮮農民はそれに順応する知識も資金もなかったから、恐ろしい混乱が惹起され、それが彼らを膨大な貧農層へ顛落させる原因となつた。その一面、優良品種は栽培条件さえ整えば高い収量をあげたし「反当収量で優良品1石に対して、朝鮮の在来品種7斗前後」。こうして優良品種は急速に普及し、一九一二年に朝鮮水稻面積の二%にすぎなかつたのが、一九四〇年には九一%を占めるに至つた。

そして、検査制度が、日本人農場主さえ憤慨するほど、官僚的、強圧的に行われたことはいうまでもない。

在日朝鮮人運動史研究会関西部会 第一四九回例会

(一九九二年十一月一日)

一九四六年の厚生省による「朝鮮人労務者に関する調査」

——兵庫県の資料を中心に

金 英 達

これまでの朝鮮人戦時動員（いわゆる「朝鮮人強制連行」）に関する研究において、解放後に日本政府による戦時中の朝鮮人労働者に関する全国的調査報告はなされていないと思われる。ところが、一九九〇年五月の韓国大統領訪日時の韓国政府側から日本政府側に対する「名簿調査」の協力要請にもとづく日本政府による労働省保有資料の公表と、一九九〇年六月の兵庫朝鮮関係研究会による兵庫県内の関係企業に対する資料公開要望にもとづく新明和工業株式会社からの公開資料の二つの新資料から、実は、一九四六年に厚生省勤労局の指示により全国の勤労署（現在の公共職業安定所）が管内の工場・事業場を対象に「朝鮮人労務者に関する調査」を全国的に実施していたことが判明した。

そこで、その調査とはどのようなものであったかを、新明和工業からの提供資料である神戸勤労署の管内企業あての通達「朝鮮人労務者に関する件」（一九四六年六月二六日付、神勤乙

第一七〇号）によって検討し、その調査報告である「第1号表」「第2号表」「第2号表附記事項」の兵庫県の分につき、部分的な集計・分析を試みた。

この一九四六年の調査は、調査項目に「未払金」「退所時の待遇」「厚生年金保険給付の済、未済」があるように、当時、在日本朝鮮人連盟が各地で企業を相手に戦後補償要求運動を活発に展開していたことに対応して、日本政府が朝鮮人労働者の未払金問題を朝連を排除して供託によって処理してしまおうという方針を決定したことともなう準備過程として実施したものであると推測される。そして、あわせて、占領軍当局からの戦時動員朝鮮人労働者に関する将来的な指令に対応していくための戦時中および戦後の朝鮮人労働者についての実情把握という目的もあったものと考えられる。

労働省が保有しているという一六県についての部分的な調査報告資料は、そのコピーを韓国政府に引き渡しているが、今のところ日本政府も韓国政府も公開していない。現在、韓国政府から民団がそのコピーを入手しており、近い将来に一般に公開される予定であるので、その分析方法などについて討論した。全都道府県からのすべての調査報告がそろっているわけではないが、かなりまとまった量の資料なので、各地域の実情に詳しい研究者・研究グループによる共同の分析作業が望まれる。神戸勤労署の通達は、一部分焼け焦げているものであるが、次の頁に紹介する。

- | | |
|-----------------------|---|
| 一、終戦時に於ける朝鮮人勞務者の數 | 名 |
| 二、歸國せしめたるもの數 | 名 |
| 三、終戦に依り解雇したる者に対する処遇状況 | |
| 四、死亡者、負傷者、逃亡者の數 | 名 |
| 五、徴用に依る朝鮮人勞務者の數 | 名 |

新図書案内

日帝下社会運動史資料叢書 [1~12]	韓国歴史研究会	ソウル	高麗書林
日本外務書 特殊調査文書 [31~62]		//	//
日帝下社会運動史資料叢書 [補完編]		//	//
朝鮮工業協會会報 [1~8]	朝鮮工業協會編	//	//
農書 [8~13]	韓国學文献研究所	//	//
昭和思想統制史資料 [1~28]	奥平 康弘	//	//
日本の社会主義と危険主義関係情報雑纂		//	//
極秘 外事警察概況 [目録, 付図, 1~8]	内務省警保局編	//	//
三. 一独立運動 [1~4]	市川 正明	//	//
高等外事月報 [1, 2]	宮田 節子	//	//
한국민족문화대백과사전 [1~27]	한국 정신문화연구원	서울	
한국의 종교와 종교법	한국종교사회연구소	"	민족문화사

研究会御案内

合同研究会 1992年12月20日 [日]

1部 朝鮮民族運動史研究会 第120回例会

時 間 午後1時~3時

報告者 姜 在彦氏

テーマ 「抗日聯合軍第1路軍の西征と挫折」

2部 在日朝鮮人運動史研究会 第150回例会

時 間 午後3時半~5時半

報告者 高木 伸夫氏

テーマ 「1930年代兵庫県在日朝鮮人労働運動」

@終了後, 忘年会を予定しています。

日, 韓キリスト教史研究会 第29回例会

日 時 1992年12月12日 [土] 午後2時

報告者 蔵田 雅彦氏, 後藤 聡氏

テーマ 「韓国キリスト教の歴史 9章の1, 2 [蔵田]

" 3, 4 [後藤]

@終了後, 忘年会を予定しています。

※場所はいづれも青丘文庫にて